

美しく老いる

野田俊作

要旨

キーワード：

あるアメリカ人のアドレリアンから「われわれアメリカ人は東洋から老人を尊敬するということを学ばなければならない」と言われて、まさか「最近では老人を尊敬するのはやめたよ」とも言えず、内心困ってしまったことがあります。

老醜などというよくないことばがあるように、老いるということは醜いことだという考えかたがある。釈迦も老人を見て人生の苦を感じて出家したといいますが、どうも老いるということの評判はよくないようですね。美しく老いるということはできないものかしら。能の翁などは美しいですね。ああいうふうに枯れるように美しく老いたいものだと、まだ三十代の半ばですが、思っています。確かに昔の東洋人、特に中国人、は美しく老いるということを考えるのに熱心であったように思います。禅の語録などにはすばらしく美しく老いた人たちが出てきますよ。

子どもたちが自立してしまうと初老期で、これは不可避です。一切の生産活動から引退してしまうと老年期ですが、こちらのほうは避けえます。問題は、どんな生産活動を続けるかにあります。八十をすぎてなお女の子を追いかけているとか、あるいは政治家のように陰謀をめぐらして楽しんでいるとか、そういう脂ぎった老人はどうも好みではないのです。枯木のようにシャバっ気がぬけて、ひょうひょうと生きたいと思うのです。しかももうろくはしたくないのです。

幸福の条件は3つ、自己受容と世界への信頼と貢献感です。問題は貢献感にあるように思います。老いてなお貢献感を持つにはどうすればよいか。生産活動に従事しているというのは、ひとえにこの貢献感を持つためです。老いてゴクツブシになるのだけはやめよう。

でも、考えてみると、実際に生産活動に従事して社会に貢献していることと貢献感を持つこととは少し違うことですね。貢献感というのは主観的な感じにすぎませんから、実際には貢献していなくても、そう感じられればいいわけです。しかし、これは、言うは易く行うは難いだろうなあ。ああ、ただ存在するだけで貢献しているような、そんな老人になれないかな。幸福であって、自分が幸福であることによってまわりの人々に幸福を与え、そのことによって貢献感を持って幸福であるというような、そういう良い循環のなかで老いてゆきたいな。それは立派な生産活動ですね。

ともかく、老いるということ、一度正面から考えてみる必要があるように思います。長生きをしても、ただ身体だけが生きているのではしかたがない。かと言って、若い人と同じ価値観を持ち同じ目標を追求するのでは、若い人に負けるに決まっているし、結局は劣等感を持つだけだ。老いがやってきたときには、その時期にならないと持てない価値観と目標とを持って美しく生き

たい。そうは思いませんか？

更新履歴

2012年6月1日 アドレリアン掲載号より転載